

平成 27 年度 第 2 回

水戸市ボランティア・NPO 等との協働推進のための市民懇話会 会議の概要

日 時 平成 27 年 12 月 9 日（水） 午後 2 時～3 時 40 分

場 所 水戸市役所本庁舎東側臨時庁舎 1 階 会議室 2

議題 1：市民アンケートの内容について

平成 28 年度市民アンケート（案）について、アンケート作成における考え方を説明し、内容に関する協議を行った。

【主な意見】

- （委員） 問 1 の年齢と居住年数は、区切り方が細かすぎるのではないか。
- （事務局） 水戸市民でも、居住年数の長さによって考え方や意識の違いがあるという声があったので、細かく設定した。
- （委員） 各年齢で同じ人数にアンケートが郵送されるのか。
- （事務局） 実施方法については現在検討中だが、例えば水戸市の人口構成に合わせて郵送する人数を変えたり、年代ごとに同じ人数ずつ郵送する方法もある。
- （事務局） 現在は、無作為抽出で選ばれた 2000 人に郵送する方法を考えているが、水戸市の年齢構成を反映した方が良いなど、提案があればいただきたいと思う。
- （委員） 居住年数について、私は 40 年近く水戸市に住んでいるが、もともと住んでいる人から見ると“よそ者”であり、今もその感覚が抜けないことがあるため、細かい方が書きやすいと思う。
- （委員） もともと水戸市に住んでいる人と、外から来た人の考え方は、相当違うと感じるため、出身地についての質問項目を追加した方が良いと思う。
- （委員） 私は生まれも育ちも水戸市だが、水戸市の中でも生まれた地域とは違うところに住むと“よそ者”になってしまうという意識がある。
- （委員） 私は 45 年ほど水戸に住んでいるが、もっと長く住んでいる人から見ると、やはり“よそ者”という意識があるように思う。
- （委員） 皆さんの意見を聞くと、居住年数の違いや、出身地の違いでコミュニケーションが取りにくかったり、考え方の違いがあることを感じているようなので、出身地を項目として追加してもいいと思う。出身地でクロス集計したアンケート結果は、とても参考になると思う。
- （委員） 80 歳以上の方が、このアンケートに答えてくれるかという心配はある。
- （委員） 年齢は 80 歳代以上、居住年数は 60 年以上でいいのではないか。
- （委員） 多数決により、このままでいいと思う方が多いので、このまま細かく聞くということにする。
- （委員） まず表紙の部分について意見をいただきたい。表紙は、アンケートに答

えるか答えないかが決まる重要な部分だと思う。事務局としては力を入れて文章化したように思うが、皆さんの意見をいただきたい。

(委員) 「少子高齢化、…」を最初にして、「このアンケートは、…」を「そんな問題を…」の後に配置した方がインパクトがあると思う。

(委員) このアンケートは、行政だけではなく市民懇話会のメンバーと一緒に相談して考えたものだという事を入れていただきたい。行政からの一方的なものではなく、市民の意見も入っているということをつかるようにすれば、市民の協力したいという気持ちが変わってくると思う。

(委員) 水戸市だけではなく、市民の代表もアンケートの制作に関わっているということを加えた方が回答しやすいと思う。

(委員) 「問題や課題を吸い上げる」という表現はふさわしくないと思う。

(委員) 行政としては、課題や問題を「吸い上げる」という感覚だと思うが、市民は、自分の意見を反映させたいという思いで回答するので、「吸い上げる」ではなく「把握する」など、他の言葉で言い換えができると思う。

同じく、3ページの問5も「吸い上げる」ではなく、「お聞きした」や「伺ったと」などに言い換えができると思う。

(委員) 「どのように感じていらっしゃいますか？」とあるが、「どのように感じていますか？」のような平易な文章の方が良いと思う。

(委員) 「みんなで作っていく」とあるが、「作る」は、工作など手で小さいものを作るイメージがあるので、「実現する」や「創る」に変えた方が良いと思う。

(委員) 「みんなで一緒に考えて」とあるが、「みんな」がだれを指しているのか曖昧なので、「市民と行政」のように具体的に示すべきだと思う。

(委員) 枠の中の文章は、太字などを活用し、メリハリを付けた方が良い。

(委員) 記入にあたってのお願いで、「ご自身が記入してください」とあるが、自分で記入できない、内容が理解できない人もいるため、「原則として」という文言を加えてはどうか。

(委員) 原則にすると曖昧になると思う。

(事務局) 「ご自身」を入れなくても意味は通じる。

(委員) 一般のアンケートでは、代理回答はよくないという考えなので、「ご自身」を入れた方が良いと思う。

(委員) 今回のアンケートの内容は、自由記述が多いので、無作為抽出よりは20代から70代の中から選ぶ方が良いと思う。80代90代まで対象を広げると、この内容だと書けない人が多くなり、回収率が下がると思う。

(事務局) 基本的には無作為抽出で選んだ2000人に郵送で送ることを考えているが、郵送だけで何%の人が答えてくれるのか心配なところはある。より多くの市民からの意見が欲しいと思っているため、インターネットを利用し

たり、アンケートシステムを活用しながら行う方法もあると考えている。

(委員) 80歳、90歳でもパソコンを扱えるし、文字も書ける人はたくさんいる。アンケートを出さずか出さないかは、若い人も忙しくて出せないということもあるので、高齢者も若い人も同じだと思う。

(委員) このアンケートは、今回が初めての試みなので、年齢を制限せずにやってみる考え方もある。もし、高齢者の回収率が悪ければ、2回目以降はインタビューを行うなど、工夫すればいい。

(委員) 記入に当たってのお願いで、「できるだけ」の後に「具体的に」や「積極的に」を加えた方がいいと思う。

(委員) 「できるだけ」は削除した方が良くと思う。

(事務局) 「できるだけ」を削除して、「積極的に」などの文言を考える。

(委員) 自由記述がどのように公表されるかを明記する必要があると思う。

(事務局) 自由記述の取り扱いについて今後検討する。

(委員) 問1で、小学校区となっているが、市民センターの区分と違うのか。

(委員) 基本的に同じだが、内原地区だけ市民センターはなく、小学校区になっている。

(委員) 居住地の分け方として、小学校区で分けるのは適切か。

(委員) 小学校区で分かりやすいと思う。

(委員) 常磐小学校区が抜けているのではないか。

(事務局) 「常澄」を「常磐」に修正する。

(委員) 職業について、もう少し具体的に答えられるように項目を増やすべきだと思う。

(委員) このアンケートではどのような項目が必要なのかを考えて、項目を決めるべきだと思う。

(委員) 地域活動をしている人は、無職であっても市民意識が高い人はいるため、職業とのクロス集計は重要になってくると思う。

(事務局) このアンケートで何が知りたいかの最低限の項目を検討していきたい。

(委員) 問2と問5で、市民参加の意向を具体的に聞く設問があるので、どのような職業なのかを把握することは重要になってくると思う。

(委員) 居住年数について、市内での居住年数なのか、現住所での居住年数なのか分からないので、「(水戸市)」と明記するなど、答え易いように工夫した方がいいと思う。

(委員) (2-1)の設問は、市民活動を行っている私でも、「参加したことがある」項目は数個しかなかった。「知らない」ばかりにチェックが付くと、このアンケートは私には関係ないと思って、アンケートに答える気が無くなるのではないかと感じた。この設問は削除した方が良くと思う。

(委員) 「知らない」にチェックする欄が無ければ、私には関係ないと思ってし

まうかもしれないが、「知らない」にもチェックする欄があるので、問題ないと思う。

(事務局) たしかに、最初の質問なので、回答意欲に関わってくる。

(委員) 項目を精査して、類似のものをまとめる作業が必要だと思う。例えば、ワークショップとフォーラムはまとまると思う。市政モニター制度も何かとまとまると思う。回答する市民にとって、市政に参加できる場がこんなにあるのかという啓発になり、ポジティブに考えられると思う。

(委員) 市民センターで町内会・自治会活動をしている人達も市に貢献していると思うが、それは項目に入らないのか。

(事務局) 項目をまとめるなど精査して、地域での活動についての項目も考えてみたいと思う。

(委員) 「審議会等への傍聴」に、市議会の傍聴を入れてほしい。

(委員) 設問の文章で「次にあげるもの中で」を「次にあげる項目の中で」に修正してはどうか。

(委員) アンケートは、答え易い設問を最初に置くのは基本的なことである。問3の方が一般の人は答え易いと思うので、設問の順番を入れ替えてはどうか。問1のような設問は、多くの調査で最後に置いている。

(委員) 問3を最初に置き、市民の「想い」を先に聞くことで、アンケートの趣旨を全面に押し出すことができ、効果的だと思う。設問の入れ替えをすることで、流れとして分かりやすくなると思う。

(委員) このアンケートは何を目的としているのか、どんなことを期待しているのか、曖昧だと思う。どのくらいの人が市政に関わっているのかを知りたいのか、それとも、より具体的に課題方法を探りたいのか、事務局はどう考えているのか。

(事務局) 今回は「市民参加と水戸のまちづくり」をテーマにしているが、市政に対する市民の意識の現状を把握することを目的として、水戸のまちづくり全般に関して、市民の身近な課題を検討していく場も考えており、このアンケートの結果をベースとして、次の検討の場へ繋がってくると考えている。

(委員) 前回の資料の川西市のアンケートでは、地域活動について問う具体的なものだったが、今回のアンケートはあまりにも漠然としたイメージがする。水戸を良くするための前段階の資料として意見を集めるものだと思うが、1年に1回のアンケートで水戸の問題を解決するのは、非常に時間がかかると思う。

(委員) 年1回のアンケートで上がってきた課題をすぐに解決するのは難しいと思うが、このアンケートでは、市政にどれだけの人が関わっているのか、市政に対してどのような想いがあるのか、自分の足元をどれくらい見てい

るのかなどの情報は得られると思う。

(委員) 1年目のアンケートは、市民と行政がどのように関わっていくのかに重点を置き、問題解決に向けての具体的なことは交流の場で話し合っていくということだが、このアンケートの方向性としてはどうか。

(委員) 方向性としては良いと思う。また、この結果を住みよいまちづくり推進協議会を通して、各地区へ伝えてほしい。地区が変わらないと水戸市全体は変わらないと思う。その地区に住んでいる人がどのような課題を持っているのかが分かると思うので、地区にアンケート結果の情報がほしい。

(委員) 問題点や課題を吸い上げる水戸市の前向きな姿勢が出ているアンケートだと思う。具体的に自分の身近な問題について答えるのであれば、意欲を持って記入できると思う。行政側から一方的に見た問題点や課題ではなく、市民が生活の中で感じている問題点や課題の解決について、自分もそこに参画できる意識を持って答えることができるアンケートだと思うので、ぜひ実施してほしい。

(委員) 水戸市の前向きな姿勢は伝わるが、内容が漠然としているという意見もあるので、設問の構成や文言についてもさらに一歩進んで、改善できたらいいと思う。課題の解決まではいかないが、課題を把握して、これから一緒にやっていきましょうという想いが伝わればいいかなと思う。

(委員) 最初のアンケートなのでこれでいいと思うが、前回の資料のような、具体的な問題に対して、ワークショップなどを行い、市政のためになるような答えを出している例を見ると、水戸市でも、具体的に市長に答申できるようなものになっていくといいと思う。

(委員) 水戸市では、初めての取組であるため、今後どのような道筋で進めていくのかを市民に示すのは重要だと思う。

(委員) (2-2)に「市政に参加する」とあるが、何を指すのかが分からないので、「市政に対して意見を述べたり、水戸のまちづくりに参加する」と修正してはどうか。

(委員) 普段使っている言葉が、市民にとっては分かりにくい場合があるので、市民の目線で率直な意見をいただきたい。

(委員) (2-3)に「地域活動」とあるが、何を想定しているのか。

(事務局) 地域のより身近な活動を意味しており、例えば、子ども会やPTAの活動などを指している。

(委員) そのような例を示した方が分かりやすいと思う。

(委員) (2-2)と(5-1)の設問が同じではないか。

(事務局) (2-2)は、(2-1)に挙げている市民参加の機会について参加意向を問うもので、(5-1)は、これから開催したいと考えている交流の場についての参加意向を問うものである。

- (委員) 違いが分かるように、説明を加えた方がいいと思う。
- (委員) (3-1)の「水戸は住みやすいなあ」は、くだけすぎな表現だと思う。また、「教えてください」より、「具体的に記入してください」などの方がいいと思う。
- (委員) 私はくだけた表現の方が回答しやすいと思う。
- (委員) 良い点はなかなか思い浮かばず、つつい悪い点ばかり目についてしまいがちで、くだけた表現の方が「住みやすさ」をイメージしやすいと思う。
- (委員) ねらいがはっきりしていて、よくまとまったアンケートだと思うので、設問内容が理解できるのであれば、どちらの表現でもいいと思う。
- (委員) 回答する側が抵抗なければ、くだけた表現でいいと思う。
- (委員) 「教えてください」は修正し、くだけた表現はそのままにすることをお願いしたい。
- (委員) (3-2)に、「改善した方がよいと思っていること」を追加した方が考えやすいと思う。
- (委員) (3-3)は、複数選択可になっているが、複数選択にすると何となくチェックを付けたものが1位になってしまうので、地域や年齢ごとに1番問題となっている課題を明確に把握するためには、単数選択にする方がいいと思う。
- (委員) 確かに、複数選択にすると曖昧になり、視点がぼやけてしまう。
- (委員) 一般に、複数回答と単数回答では1位は変わってくるとされている。甲乙つけたくない調査の時は複数でやる場合もある。
- (委員) 回答する側としては、(3-4)で具体的なことを書く欄があるので、単数選択の方が書きやすい。
- (委員) 地域にどのような問題が分布しているのかを把握して、さらに円卓会議などで深めていくことを考えていると思うが、複数選択にすると視点がぼやけて、アンケートで把握できることが曖昧になってしまう可能性もある。
- (委員) 1位には◎、2位以降には○というのはどうか。
- (委員) 集計しにくいと思うので、2つまでとか3つまでなどの方がいいと思う。
- (委員) 回答方法を複雑にすると、無効票が出てしまう。せっかく回答してくれているのに分析対象にならなくなってしまうので、それよりは個数を決めて選択した方がいいと思う。
- (事務局) 複数選択にするか、単数選択にするか、事務局で検討する。
- (委員) このアンケートが1回きりであることを示し、答えやすいアンケートにするために、感想を聞きたいということを設問の中に入れて方がいいと思う。
- (委員) 自由記述はとても重要だと思うが、どのように扱って、公表していくのか。

- (事務局) 箇条書きにして、記載できるものは極力公表していきたいと考えている。
- (委員) 全部公表するのか、類似するものをまとめて公表するのか。自由記述欄の分析は大変だと思う。
- (委員) 分析ソフトを使って図表に示すこともできるが、水戸市が実施したこれまでのアンケートでは、箇条書きにしているものが多い。
- (事務局) 表現の仕方については検討するが、いただいた意見は全て出していきたいと考えている。
- (委員) とても素晴らしいことだと思う。

議題 2 : 市民アンケートの実施方法について

市民アンケートの実施方法について、より多くの市民の意見や課題を把握するため、無作為抽出で 2000 人に郵送する方法の他、インターネットによる回答や、アンケートシステムの活用、各関係施設の来場者にアンケートを行うなど、様々な手法で行っていきたいことを示し、次回以降の会議で、実施方法の方向性について示すこととした。

議題 3 : その他

- アンケートに関する意見について

会議で出た意見の他に、意見などがあればメール等で事務局に連絡する。

- 次回の市民懇話会について

平成 28 年 1 月 20 日 (水) 午後 2 時から、水戸市役所本庁舎東側臨時庁舎の会議室 2 で開催する。

- 情報公開について

協働の原則に基づき、会議の概要を市ホームページと市民活動情報 Web サイト「こみっと広場」で公表することの了承を得た。